

新登場

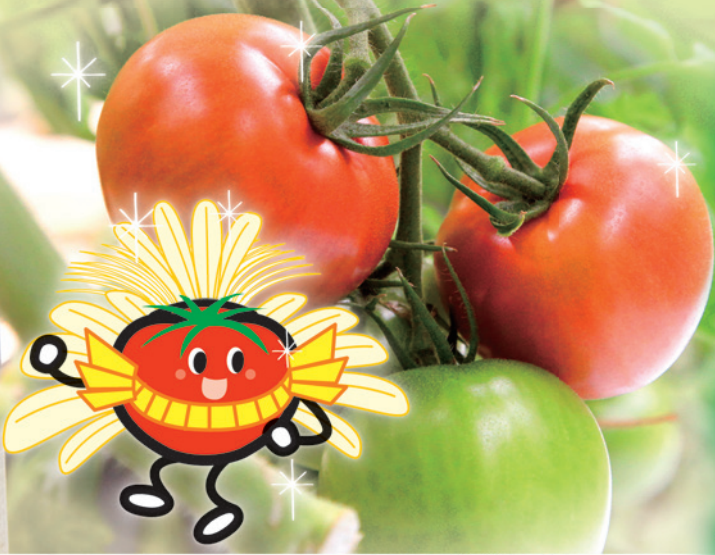
カーニバル

水和剤



®は協友アグリ(株)の登録商標

トマト：疫病



あとの祭り、になる前に。



ばれいしょ：疫病



カーニバルで
はじめよう!
疫病・べと病・
うどんこ病
の予防!

たまねぎ：べと病



カーニバル水和剤の特長

- ◎幅広い殺菌スペクトラムを有するTPNと、べと病・疫病に特異的な効果を発揮するジメトモルフの混合剤です。
- ◎ジメトモルフの含有により、べと病・疫病に優れた予防効果と治療的効果を発揮します。
- ◎2つの異なる作用機作の有効成分を組み合わせたことで、耐性菌発達のリスクが低減されると考えられます。

適用病害と使用方法

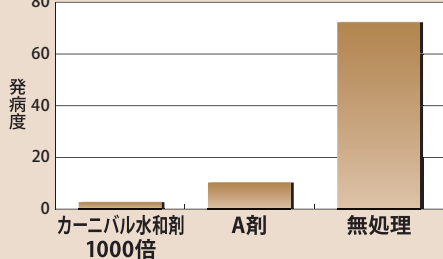
2024年6月現在（太字は2024年4月24日適用拡大）

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジメトモルフを含む農薬の総使用回数	TPNを含む農薬の総使用回数			
ばれいしょ	夏疫病、疫病	1000倍	100~300ℓ / 10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	5回以内			
なす	すずかび病、うどんこ病 灰色かび病、褐色腐敗病	1500倍						4回以内			
メロン	うどんこ病、べと病、つる枯病			5回以内							
すいか	つる枯病、炭疽病										
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病 うどんこ病	1000倍		収穫前日まで				2回以内	6回以内(土壌灌注は2回以内、 散布、常温煙霧、くん煙及び エアゾル剤の噴射は合計4回以内)		
ミニトマト	斑点病									2回以内	
きゅうり	炭疽病、うどんこ病 褐斑病、べと病	1500倍		収穫7日前まで				3回以内		14回以内(土壌灌注は2回以内、 散布、常温煙霧、くん煙及び エアゾル剤の噴射は合計12回以内)	
かぼちゃ	うどんこ病、べと病										
キャベツ	べと病	1000倍		収穫14日前まで				2回以内		3回以内(は種又は定植前の 土壌混和は1回以内、散布、無人航空機散布 及びエアゾル剤の噴射は合計2回以内)	
はくさい	べと病、黒斑病、白斑病			収穫7日前まで							
ねぎ	さび病、黒斑病、べと病			収穫14日前まで				3回以内			4回以内(土壌灌注は1回以内、 散布及び無人航空機散布は合計3回以内)
たまねぎ	べと病、灰色かび病 白色疫病			収穫7日前まで							
レタス	べと病、すそ枯病	1500倍		収穫14日前まで				3回以内		6回以内	

試験事例

ばれいしょ・疫病に対する効果

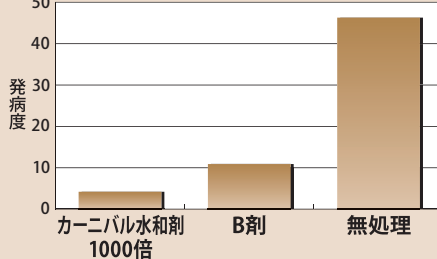
(2017年 北海道植物防疫協会)



●供試作物：ばれいしょ(品種：とうや) ●発生条件：多発生(接種) ●処理日：2017年7月7、14、23、31日、8月7日
●処理量：100ℓ/10a ●調査方法：8月16日(最終散布9日後)に各区25株について発病度を調査した。

トマト・疫病に対する効果

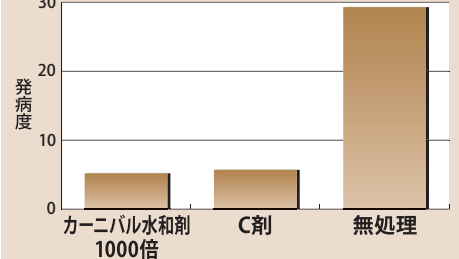
(2017年 日本植物防疫協会 宮崎試験場)



●供試作物：トマト(品種：桃太郎ピース※台木：がんばる根) ●発生条件：多発生 ●処理日：2017年6月12、19日
●処理量：190~240ℓ/10a ●調査方法：6月26日(最終散布7日後)に全株について発病度を調査した。

たまねぎ・べと病に対する効果

(2017年 愛媛県農林水産研究所)



●供試作物：たまねぎ(品種：ネオアース) ●発生条件：多発生(接種) ●処理日：2017年4月3、12、18、25日 ●処理量：200ℓ/10a(クミン5000倍加用) ●調査方法：5月2日(最終散布7日後)に各区100株について発病度を調査した。

使用上の注意事項

効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布してください。
- 本剤は茎葉部からの吸収移行性及びガス化による効果はないので、散布むらのないよう均一に散布してください。
- 本剤は予防効果が主体で治療効果は弱いので散布時期を失することなく処理してください。
- 連続使用は耐性菌出現のおそれがあるので、なるべく連用を避け、作用性の異なる他の薬剤と組合せて輪番で使用してください。
- トマト・ミニトマトに使用する場合、果実に汚れを生じるおそれがあるので十分注意してください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

安全使用上の注意

- 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。



- 散布の際は農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗顔・うがいをするるとともに衣服を交換してください。



- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。



- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけてください。
- 夏期高温時の使用をさけてください。

害虫

- 蜜に対して影響があるので、周辺の養蜂にはかからないようにしてください。

水産動物への注意

- 水産動物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理してください。

貯蔵上の注意

- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温な場所に密封して保管してください。

本資料の記載内容は2024年6月現在の登録内容に基づいています。

★使用前にはラベルをよく読んでください。★ラベルの記載以外には使用しないでください。★本剤は小児の手の届くところには置かないでください。★空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。